

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年10月5日(2006.10.5)

【公表番号】特表2002-511424(P2002-511424A)

【公表日】平成14年4月16日(2002.4.16)

【出願番号】特願2000-543162(P2000-543162)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/06 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

C 0 7 K 16/18 (2006.01)

C 0 7 K 19/00 (2006.01)

C 1 2 P 21/08 (2006.01)

C 1 2 Q 1/02 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 39/395 D

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 K 39/395 Y

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 37/06

A 6 1 P 43/00 1 0 5

C 0 7 K 14/47

C 0 7 K 16/18

C 0 7 K 19/00

C 1 2 P 21/08

C 1 2 Q 1/02

A 6 1 K 37/02

【手続補正書】

【提出日】平成18年8月17日(2006.8.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

胆汁糖タンパク質ポリペプチドの架橋を選択的に減少させる剤、および薬学的に許容しうるキャリアーを含む、患者におけるキラーT細胞の細胞傷害性または増殖を亢進させるための医薬組成物。

【請求項2】

剤が、単一の胆汁糖タンパク質分子にのみ結合する、抗体または抗体断片である、請求項1の医薬組成物。

【請求項3】

抗体断片がFab断片である、請求項2の医薬組成物。

【請求項4】

剤が、胆汁糖タンパク質ポリペプチドに対するリガンドを含み、該リガンドが、単一の胆汁糖タンパク質ポリペプチドにのみ結合する、請求項1の医薬組成物。

【請求項5】

リガンドが、免疫グロブリン分子またはその断片に融合されている、請求項4の医薬組成物。

【請求項6】

リガンドが、胆汁糖タンパク質またはその断片である、請求項4の医薬組成物。

【請求項7】

キラーT細胞がCD4<sup>+</sup> T細胞、CD8<sup>+</sup> T細胞およびNK細胞からなる群より選択される、請求項1の医薬組成物。

【請求項8】

キラーT細胞が、腸上皮内リンパ球である、請求項1の医薬組成物。

【請求項9】

キラーT細胞が末梢血T細胞である、請求項1の医薬組成物。

【請求項10】

胆汁糖タンパク質ポリペプチドの架橋を選択的に増加させる剤、および薬学的に許容しうるキャリアーを含む、患者におけるキラーT細胞の細胞傷害性または増殖を抑制するための医薬組成物。

【請求項11】

剤が抗体である、請求項10の医薬組成物。

【請求項12】

抗体がモノクローナル抗体である、請求項11の医薬組成物。

【請求項13】

剤が、胆汁糖タンパク質ポリペプチドに対するリガンドを含み、該リガンドが、2つまたはそれ以上の胆汁糖タンパク質ポリペプチドに結合する、請求項10の医薬組成物。

【請求項14】

リガンドが、免疫グロブリン分子またはその断片に融合されている、請求項13の医薬組成物。

【請求項15】

リガンドが、胆汁糖タンパク質またはその断片である、請求項13の医薬組成物。

【請求項16】

キラーT細胞がCD4<sup>+</sup> T細胞、CD8<sup>+</sup> T細胞およびNK細胞からなる群より選択される、請求項10の医薬組成物。

【請求項17】

キラーT細胞が、腸上皮内リンパ球である、請求項10の医薬組成物。

【請求項18】

キラーT細胞が末梢血T細胞である、請求項10の医薬組成物。

【請求項19】

キラーT細胞の細胞傷害性または増殖を、特異的に亢進させるためのin vitro方法であって：

キラーT細胞の細胞傷害性または増殖を亢進させるのに有効な量の、胆汁糖タンパク質ポリペプチドの架橋を選択的に減少させる剤と、キラーT細胞集団をin vitroにて接触させる

ことを含む、前記方法。

【請求項20】

剤が、単一の胆汁糖タンパク質分子に結合する、抗体または抗体断片である、請求項19の方法。

【請求項21】

抗体断片がFab断片である、請求項20の方法。

【請求項22】

剤が、胆汁糖タンパク質ポリペプチドに対するリガンドを含み、該リガンドが、単一の胆汁糖タンパク質ポリペプチドにのみ結合する、請求項19の方法。

【請求項23】

リガンドが、免疫グロブリン分子またはその断片に融合されている、請求項22の方法。

【請求項24】

リガンドが、可溶性胆汁糖タンパク質分子またはその断片である、請求項22の方法。

【請求項25】

キラーT細胞がCD4<sup>+</sup> T細胞、CD8<sup>+</sup> T細胞およびNK細胞からなる群より選択される、請求項19の方法。

【請求項26】

キラーT細胞が、腸上皮内リンパ球である、請求項19の方法。

【請求項27】

キラーT細胞が末梢血T細胞である、請求項19の方法。

【請求項28】

キラーT細胞の細胞傷害性または増殖を、特異的に抑制するためのin vitro方法であって：

キラーT細胞の細胞傷害性または増殖を抑制するのに有効な量の、胆汁糖タンパク質ポリペプチドの架橋を選択的に増加させる剤と、キラーT細胞集団をin vitroにて接触させる

ことを含む、前記方法。

【請求項29】

剤が抗体である、請求項28の方法。

【請求項30】

抗体がモノクローナル抗体である、請求項29の方法。

【請求項31】

剤が、胆汁糖タンパク質ポリペプチドに対するリガンドを含み、該リガンドが、2つまたはそれ以上の胆汁糖タンパク質ポリペプチドに結合する、請求項28の方法。

【請求項32】

リガンドが、免疫グロブリン分子またはその断片に融合されている、請求項31の方法。

【請求項33】

リガンドが、可溶性胆汁糖タンパク質分子またはその断片を含む、請求項31の方法。

【請求項34】

キラーT細胞がCD4<sup>+</sup> T細胞、CD8<sup>+</sup> T細胞およびNK細胞からなる群より選択される、請求項28の方法。

【請求項35】

キラーT細胞が、腸上皮内リンパ球である、請求項28の方法。

【請求項36】

キラーT細胞が末梢血T細胞である、請求項28の方法。

【請求項37】

免疫グロブリン分子またはその断片に融合されている、胆汁糖タンパク質ポリペプチドまたはその断片を含む、単離融合タンパク質。

【請求項38】

胆汁糖タンパク質またはその断片が、34B1、5F4および26H7からなる群より選択されるモノクローナル抗体に選択的に結合する、請求項37の単離融合タンパク質。

【請求項39】

胆汁糖タンパク質の断片が、CD66aのN-ドメイン、CD66aのNA1B1ドメイン、CD66aのNA1B1A2ドメインからなる群より選択される、請求項38の単離融合タンパク質。

【請求項40】

免疫グロブリン分子の断片が、免疫グロブリン分子のFc部分である、請求項37の単離融合タンパク質。

【請求項41】

胆汁糖タンパク質に結合する、2つまたはそれ以上の胆汁糖タンパク質ポリペプチドまたはその断片を含む、単離融合タンパク質。

【請求項42】

キラーT細胞活性を亢進させるかまたは抑制する化合物を同定するための方法であって

、  
(a) 胆汁糖タンパク質を発現するキラーT細胞集団を、胆汁糖タンパク質と結合する化合物と接触させ、そして

(b) 細胞傷害性または増殖を増加させる化合物は、キラーT細胞活性を亢進させる化合物であり、そして細胞傷害性または増殖を減少させる化合物は、キラーT細胞活性を抑制する化合物であることに基づいて、コントロールに比較した、キラーT細胞集団の細胞傷害性または増殖を測定する、  
ことを含む、前記方法。

【請求項43】

さらに

(a) 胆汁糖タンパク質ポリペプチドまたはその断片を提供し、

(b) 該胆汁糖タンパク質ポリペプチドまたはその断片を、化合物と接触させ、

(c) 該胆汁糖タンパク質ポリペプチドまたはその断片に対する、請求項42の段階(a)に用いられている該化合物の結合を測定する、  
段階を含む、請求項42の方法。